

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	川西市環境審議会		
事 務 局	美化環境部美化環境室環境創造課 内線(2930)		
開 催 日 時	平成27年12月3日(木) 14時00分～16時10分		
開 催 場 所	市役所 4階 庁議室		
出 席 者	委 員	木下委員(会長)・井口委員・豊福委員・武田委員・横谷委員・中本委員・ 信田委員・津田委員・加藤委員・樋口委員・菅原委員	
	事務局	美化環境部長 : 杢田 功 美化環境室長 : 新田 稔 環境創造課長 : 仲下 道則 環境創造課主査 : 柳本 一志	
傍 聴 の 可 否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	【議 事】 (1) 川西市環境基本計画の改定について (2) 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会の設置について(諮問)		
会 議 結 果	詳細は審議経過のとおり		

審議経過

事務局	<p>開会のあいさつ</p> <p>資料確認</p> <p>新委員紹介</p> <p>委託業者紹介</p> <p>議事の概要説明</p> <p>資料説明（委託業者）</p>
会 長	<p>本日は「環境基本計画改定」「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会の設置」の2つの議事について議論を進めていく。</p> <p>まずは「環境基本計画改定」について資料をもとに議論を進めていきたい。委員の皆様のご意見をお聞かせください。</p>
委 員	<p>資料1を見ると、目標に対して未達成が多いように見受けられるが、目標値が高すぎたということだろうか。</p>
事務局	<p>各施策の目標値はそれぞれの担当部署が設定しているものであり、人員や予算的な理由から達成できなかった項目や、いろいろなケースがあるので一概に目標値が高すぎたとは言えないと考えている。</p>
委 員	<p>資料1について、評価と総合評価の関係性が不明瞭である。また、目標の設定が継続して行われている施策で、急に目標を設定しなかった年度がでてきたり、数値が入っているのに未評価だったりするのがあるのはどういうことだろうか。</p>
委託業者	<p>評価と総合評価の関係性については、◎を4点、○を3点、△を2点、×を1点とし、－を除いたそれらの評価の平均点を総合評価としている。</p>
委 員	<p>そうすると、明らかにおかしい箇所がある。</p>
委託業者	<p>小数点の切り捨ての関係で合わないところがある。</p> <p>歴史的文化的環境の総合評価は3点になるので修正願いたい。</p>
委 員	<p>例えば歴史的文化的環境のところ、数値が入っているのに未評価の黄色になっているなど、おかしいのではないかと。</p>
会 長	<p>そのあたりは事務局側でもう一度精査してもらいたい。</p>
委 員	<p>評価が－となっている項目は、データとしてとらない、総合評価に反映され</p>

	<p>ないという説明であったが、そうすると評価がでているのは半分くらいなので、評価から総合評価にいくのにデータとして不足しているのではないか。例えば2つしかないのに総合評価として数値に置き換えている項目があるが、それは評価の方法として適切なのか。</p>
会 長	<p>総合評価は目安だと考えてもらいたい。○とか×とかよりは数値の方がわかりやすいと思うので、そういう意味の目安であり、厳密な3というよりは、だいたい3ぐらいの感じだなという風に感じ取ってもらいたい。</p>
委 員	<p>表1について、人数が入っているのに評価されていなかったりするのは理解できない。目標未設定であれば評価対象外にしていることなどを明確にした方がよい。そうしないと表が理解できない。表の中身がバラバラである。</p>
事務局	<p>表1の数値については、毎年各所属に目標値及び実績値をあげてもらっている。各所属の判断で各年度の目標値を設置してもらっているので、項目によっては目標値の設置になじまない年度があるなどいろいろなケースがある。そのデータを集約したものが表1になる。それに基づいて、委託業者で一定のソフトを用いて評価を行っているものである。</p>
委 員	<p>目標に達成できなかった分析はできるのですか。</p>
会 長	<p>資料1については、次回審議会までに修正して、議論を行いたいと考えている。</p>
委 員	<p>同一の施策内で、同じ数字であるにも関わらず年度によって評価が異なる箇所が見られるのはなぜなのか。</p>
委託業者	<p>目標値は年度により変わるので、同じ数字であっても必ずしも同様の評価になるわけではない。</p>
会 長	<p>各所属によって目標値を掲げないという判断もあるのかもしれない。そうだとすると、このような総合評価の仕方は適切でないのかもしれない。この資料については、次回の環境審議会までに再度検討して再提出いただきたい。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
委 員	<p>地球環境の省資源リサイクルの指標は17あるがこれは適切なのか。黄色の部分が多いがこれが適切なのか。</p>

会 長	この指標については、各所属があげてきている。この項目選定については過去の問題になるので、次に選定する際には、もう少し判断できるような項目するという反省材料にしたい。次回の審議会には、各所属がどのような考えを持っているかも確認しておいてもらいたい。
委 員	例えば、大気中のダイオキシン濃度については青と黄色の二つあるが、毎年目標が変わるようなものではないので、理解できない。 できれば、このあたりも含めて、次回の審議会時には目標値も併せて分かるようにしてもらいたい。
事務局	大気中のダイオキシン濃度の項目の数値については、直接実施したものであるのではないので、わかりかねるところがあるが、残っているデータでいうと、2年に1回の隔年調査を行っていたが、平成24年度以降は測定を実施していないことになっている。
会 長	施策ごとの項目について、ある程度説明を加えてもらいたい。
委 員	表1については、同じ数値なのに評価が違うなど、全体的に信憑性が低いので、もう一度精査してもらいたい。
会 長	次回3月の審議会の時には、この表をもう少し精査して出してもらいたい。
委 員	この表については、施策ごとに責任部署を記載してもらいたい。
委 員	今後の目標値の設定については5年10年などの、中・長期的な目標値をたてるようにしてもらいたい。
事務局	各指標については、達成期間がさまざまであるので、各所属の判断で、自主的に評価していただいているのが現状です。
委 員	今回の改正においては、目標年次に向けての数値を掲げて、それに見合うべく努力していくような計画にすべきである。
会 長	おっしゃるとおりだと思います。 次に意識調査、アンケートの内容についても議論していきたい。
委 員	資料3の間43の数値などは、北部に比べ中部がすごく悪いような印象を受

	ける。あまり実状とあっていないように思う。
委員	<p>北部について、一般的には自然が豊かな場所だと思われがちだが、現実には自然災害により近づけない場所などがある。そういった場所のことも含めて市民が回答しているのか疑問である。歴史など川西市にはすばらしいものがあるが、それらを子供たちや若者にどうつなげていくかが環境政策のひとつになると思う。</p> <p>また、アンケートを取るなら、やはり各地区へ出向くことも必要であると考え。アンケートを答える年代によっては結果が全然変わってくるので、アンケートの取り方も研究していただきたい。</p>
会長	<p>現在の案では、個人の意識調査については、市民実感調査を活用することとして、それ以外に自治会や事業所、学校関係などに個別にアンケートを取ろうと考えている。</p> <p>アンケートの結果については、単に数値だけでなく、内容をよく考えて議論する必要があると考える。そのあたりは事務局側でよく考えて、集計してもらいたい。</p>
委員	「資料 4-1」の問 6 について有害鳥獣の駆除の対象がアライグマ、ヌートリア等となっており、これは外来動物の問題だと思うが、それ以外のシカ、イノシシの問題についてはどうなっているのか。
会長	シカ、イノシシについては問題となっているようなので、設問内にシカ、イノシシについて記載してもらいたい。
事務局	わかりました。
委員	アンケート全般に配布数が少なく統計的な意味はとれないのではないかと。またクロス集計をしても意味がないのではないかと。
委託業者	確かに母集団としては少ない面があるが、今回のアンケートでは環境に係る特定の団体ごとの考え方の傾向を把握することを目的としており、現在想定しているアンケート数でも十分な効果はあげられると考えている。
委員	事業者についてはどう考えているのか。
委託業者	事業者については、予算的な面もあり、現在想定している配布数で実施することを考えている。

委員	自治会へのアンケートの形態としては、回覧によるものを想定しているのか。
委託業者	各自治会の自治会長宛にアンケートを送付する予定である。
委員	アンケート対象の学校数について 22 校とあるが 24 校ではないか。
委託業者	22 校は誤りであった。24 校に修正する。
委員	「資料 4-1」の問 8 および問 9 について、「多少参加している」という選択肢は不適切であるため「たまに参加している」に変更することが望ましい。また、「資料 4-2」の問 2 について「コージェネレーションシステム」や「ヒートポンプ」等の専門用語は理解されないのではないかと。
委員	一概に自治会といっても、規模が全く違う。ひとつの自治会にひとつのアンケートでよいのだろうか。
委員	地域の区分について、特に中部については、歴史的背景も住民の意識も様々であるので、西と東に分けた方がいいのではないかと。
委員	第 5 次総合計画の区分とあわせたほうがみやすいのではないかと。
委託業者	第 5 次総合計画では 7 つの地域に区分している。総合計画はいろいろな側面を含めての区分であるので、それらを考慮したうえで今回の 3 つにしているが、審議会の意見をうけて検討させていただく。
会長	区分ごとで考察するならば、それに対応した分け方は必要になってくる。現状の分け方では人口はかなり違うのではないかと。
委員	かなり違うと思います。もう少し分けた方が現代社会の見方としてはいいのではないだろうか。
委員	自治会も地区により大幅に人口が異なっており、現行のアンケート案では充分に実状を把握できるとは思えない。所帯数を反映するような仕組みを取り入れていただきたい。
委託業者	自治会のアンケートについては、今後の川西市の環境の担い手のひとつとして、環境の意識よりも、自治体の取組の実態を把握することに主眼を置いている。そのうえで、今後の環境施策を検討したいと考えている。

会 長	問7の空欄のところなどにいろいろなことを書いていただくのを重視しているということですね。
委 員	前回計画策定の際には、各地域に赴いて、説明の後、アンケートを行ったと思うので、より地域の思いを取り入れるなら、そういうやり方も検討いただきたいと思います。
会 長	その点について事務局の考えはどうか。
事務局	確かに前回、本計画の策定時には各地域に出向いて意見を聴取したが、現時点で全ての地域・自治会等について現地へ赴いて説明するのは人員や予算の関係から難しい。ただし、地域からの要請があれば現地へ出向いての説明も検討したい。
委 員	環境保全活動における市民団体の存在はとても大きい。その市民団体へのアンケート「資料 4-3」の内容で、問 8 について「活動に取り組む上で、どのようなことが問題になりますか。」と聞いているが、その問題についてどのように取り組んでいるか、どのようにしていきたいと思っているかなど、もう少し突っ込んで聞いた方がよいのではないかな。また、その団体の目指すべき将来像なども聞いてみてはどうだろうか。その方が今後の課題が見えてくるのではないだろうか。また、問 17 情報発信の方法について、選択肢に「ホームページ」を追加してはどうだろうか。検討してもらいたい。
委 員	基本計画の中に、「生物多様性ふるさと川西戦略」の考え方を取り入れるのも大事ではないかと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。
会 長	それは取り入れることとなると思います。
委 員	それにしては、アンケートに入っていないように思います。 また、河川に関する内容をもっと基本計画に取り入れる必要があると考えています。
会 長	次回の審議会では川西市環境基本計画改定の方向性について話し合いたい。 事務局には今回の審議会で出た意見をもとに、資料を再度検討したのち、提出していただきたい。 次の議事「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置について進めていきたい。

事務局	<p>議事、諮問の概要説明 菅原副市長より諮問</p>
会長	<p>一昨年より議論を進めてきた生物多様性戦略について、作っただけで終わりではなくて、そのチェックや進行の議論をしたりする戦略推進委員会を作ることになっています。この環境審議会が一番関連が深いので、本審議会の下に専門部会を作りたいという諮問になりますが、皆様のご意見はいかがでしょうか。</p> <p>各委員異議なし</p>
会長	<p>それでは、その方向で進めたいと思います。</p> <p>他に何かありますか。 ないようですので、これで、審議会を終わりたいと思います。 お疲れ様でした。</p>